



らぶく La・Book

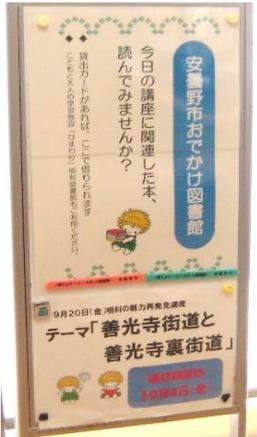
3月号
No.93

安曇野市図書館

好奇心の架け橋に



明科図書館「おでかけ図書館」から



「公民館講座とても面白かったわ。本も面白そう。」
「この分野にこんなにたくさんのお本があったなんて驚いた。」様々な声に励まされて回数を重ねることができました。

講座の余韻の残る会場の廊下、興味津々で本を見てくださいるお客様。善光寺裏街道の講座では、「あなたの知らない長野県の歴史」「峠の歴史学」「弥次喜多道中 in 安曇野・塩尻・松本・池田・大町」等、文化や歴史の本に関心が集まりました。これからも講座を訪れる皆様の好奇心と本とをつなぐ架け橋になれたらと思います。



中央図書館

奮闘!? 調べもの日記(レファレンス)

安曇野は昔、海だった!?

私たちが住んでいるこの安曇野は、昔海であった時の記憶が残されています。主に、ウミ(湖)だったこの土地を人が住めるようにしたという、母の犀龍とその子、泉小太郎による伝説があげられます。

では、どのくらい昔の話なのでしょう? そのカギを握るのは、「フォッサマグナ」です。

フォッサマグナとは、「大きな溝」を意味する言葉です。日本列島の中央部にある周囲の地層に比べて新しい地層でできている溝の地帯のことをいいます。この溝の西端が、「糸魚川静岡構造線」です。

安曇野はちょうどフォッサマグナに入る地域があります。約 1300 万年前あたりは、まだこの地域は海でした。それから次第に約 300 万年前あたりで陸地になったようです。

市内にあるその時代の地層から、クジラの化石や貝の化石等海に住む生き物の化石が出土しました。

豊科郷土博物館には、太口沢から出土した太古の生物が垣間見える、「生痕化石(レプリカ)」が置かれています。そちらも是非見に行ってみてください。



参考文献

- 『豊科町誌 自然編』豊科町誌編纂委員会 豊科町誌刊行会 1995
- 『長野の大地 やさしい地学小辞典』地学団体研究会長野支部「長野の大地」編集委員会 ほおずき書籍 2012
- 『松本盆地の魚化石をさぐる』小池伯一 2019
- 『図説 安曇の歴史』小穴 芳実/[ほか] 郷土出版社 1985
- 『信州・大地のおいたち』長野県地学教育研究会 信濃教育会出版部 1989
- 『つなぐ—安曇野の伝説—』倉石 あつ子/監修 安曇野市教育委員会 2018
- <http://azuminohaku.jp/> 安曇野市豊科郷土博物館 HP (最終閲覧日 2月20日)

私と図書館

人生をより充実したものに

七十代 男性

定年後の第二の人生は、アルプス登山を満喫しようと安曇野に移住してきた私。

「このまちを好きになるには、このまちの歴史や文化を知らねば」と、図書館通いが始まった。

静かな郷土コーナーで様々な資料を読み進めていて、ふるさとの歴史や文化を楽しみながら学んでいるグループがあることを知り、早速入会させていただくことにした。

それからは、安曇野の歴史・文化の奥深さにますます魅了されていく私。そのキッカケをつくってくれた図書館に感謝している。

これから、年を重ねて 改めてふるさとを見つめ直してみよう」とする熟年(壮年?)が増えることが予想される。児童やお母さん向けのサービスに力を入れていることには賛成です。ただ、人生をより充実したものにしよう」とする人々向け講座や書籍展示会などの企画が増えることに期待したい。



2月貸出ランキング

一般書

- 1 マスカレード・ナイト／東野圭吾
- 2 大家さんと僕／矢部太郎
- 3 そして、バトンは渡された／瀬尾まいこ
- 4 屍人荘の殺人／今村昌弘
- 5 素敵な日本人／東野圭吾
- 6 蜜蜂と遠雷／恩田陸
- 7 帰り来ぬ青春／藤田宜永
- 8 コーヒーが冷めないうちに／川口俊和
- 9 人魚の眠る家／東野圭吾
- 10 夜明けの街で／東野圭吾

児童書

- 1 おばけのてんぷら／せなけいこ
- 2 きんぎょが にげた／五味太郎
- 3 ぼくらのだいぼうけん／ぎぼりつこ
- 4 しろくまちゃんのほっとけーき／わかやまけん
- 5 だるまさんの／かがくいひろし
- 6 バムとケロのおかいもの／島田ゆか
- 7 おべんとうばこのうた／さいとうしのぶ
- 8 しずくパークにようこそ！／ぎぼりつこ
- 9 11ぴきのねことあほうどり／馬場のぼる
- 10 11ぴきのねことへんなねこ／馬場のぼる

AV資料

- 1 未来のミライ／細田守
- 2 崖の上のポニョ／宮崎駿
- 3 ゲゲゲの鬼太郎／本木克英

中央図書館から

本のソムリエ（司書）おすすめ本

一般書 『図書館さんぽ』

図書館さんぽ研究会／著 駒草出版

表紙

編集者・ライター・元図書館スタッフ・元書店員など図書館と散歩と本をこよなく愛するメンバーが集う「図書館さんぽ研究会」が編集した本。

この本では全国の様々な図書館が紹介されており、長野県内では木曾町図書館と小布施町立図書館が掲載されています。また、東京を中心とした一日楽しめるおさんぽコースも載っています。お出かけのついでに、いつもと違う図書館に寄ってみるのはいかがでしょうか？

児童書 『こども 学問のすすめ』

齋藤 孝／著 (株)筑摩書房

表紙

「学問のすすめ」は福澤諭吉という人が書きました。今から100年以上も前の明治時代に書かれたものです。

福澤先生は一万円札に描かれていますね。

何のために学ぶの？ただ本を読むだけでいいの？勉強することの意味や大切さが書かれている本です。

児童向けに読みやすくなっているので、この本を読んで学んで行動してみよう。

本屋大賞 2020 年ノミネート作決定

全国書店員が選んだいちばん！売りたい本

「線は、僕を描く」 砥上裕将／著 講談社 「ムゲンのi」 知念実希人／著 双葉社

「店長がバカすぎて」 早見和真／著 角川春樹事務所 「熱源」 川越宗一／著 文藝春秋

「夏物語」 川上未映子／著 文藝春秋 「ライオンのおやつ」 小川糸／著 ポプラ社

「流浪の月」 凧良ゆう／著 東京創元社 「ノースライト」 横山秀夫／著 新潮社

「むかしむかしあるところに、死体がありました。」 青柳碧人／著 双葉社

「medium 霊媒探偵城塚翡翠」 相沢沙呼／著 講談社



編集・発行・お問い合わせ



中央図書館 ☎84-0111
 豊科図書館 ☎71-4022
 三郷図書館 ☎76-3078
 堀金図書館 ☎72-3601
 明科図書館 ☎62-1122

(図書館ホームページ(蔵書・資料の検索もできます))

<http://www.city.azumino.nagano.jp/site/tosho>

※編集後記※
 三月と言えば、各地から花の便りが届きだし、寒い信州も春らしさが増してくる時期ですが、何か物寂しさを感じるのは、卒業・卒業など別々の季節だからでしょうか？
 幾つかの楽しかった思い出や悲しかったことなどを胸に、新しい生活が始まる方もいると思いますが、いろいろな本を求めて図書館へ通った日々を忘れずに、本を読む習慣をずっと続けたいと思います。

